

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700256		
法人名	医療法人 翡心会		
事業所名	中央グループホーム和		
所在地	愛知県岩倉市新柳町1丁目44番地		
自己評価作成日	令和6年1月29日	評価結果市町村受理日	令和6年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2374700256-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和6年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご入居者様にご自身主体で日常生活を行って頂けるような声掛けや環境作りに力を入れています。コロナが5類へと変更された中、感染状況にもよりますが、ご入居者様とご家族様が同じ時間を共有できるような行事を計画し、実践していきたいと考えています。
 野菜の皮むきなどの下準備、生活空間の掃除、ご入居者様に楽しんでいただきながら職員と一緒に
 行っています。
 理念でもある「寄り添う介護」の追及の為、日々変わる日常の中でご入居者様と一緒に出来ることを模
 索し、実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりませ
 ん。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践
 状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者様の想いを尊重し、その人らしさを大切にするケアの方法を日々話し合っている。全てのご要望にお応えできてはいないが、可能な限り実践できるように心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの感染状況もあり、現状での交流は少ない状態が続いているがご入居者様と一緒に買い物に行くなど、外部との関わりを持っていただけるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的には行えていないが、見学に来られた方やご家族様から相談をいただいた際に認知症ケア等をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた意見は法人内の会議や職員間で共有し、改善できるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告や相談事があった場合はその都度連絡を取らせていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合、身体拘束3原則について事例などを通じて勉強会を行っている。玄関の施錠については、防犯の観点から夜間には行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起これないように日々細心の注意を払っている。身体的虐待はもちろんのこと声のかけ方や介助中の言動など違和感、不適切だと感じた場合は管理者から伝えたり、職員間で注意するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体での勉強会は行っていないが、個別に質問等あれば介護支援専門員が中心となり講義などを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門的な用語ではなく、分かりやすい言葉にてお伝えするように心掛けている。 またその場で署名をいただくのではなく、持ち帰り理解してもらった上で署名をお願いする場合もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの要望など定期的に確認させていただき、実践できるように職員に共有、情報交換を行っている。 外部へは運営推進会議にて報告することでしか表せていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティング行う時間を作り、職員が発言する機会を設けている。 代表者への相談は行いやすい環境である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の意見を大事にして下さり、可能な限り対応して頂いている。 また職員一人一人が働きやすくなるよう、個別に話を聞き取るなどもされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に沿って毎月勉強会を行っている。 今年度は希望者がいなかったが、研修などの希望があれば、シフトの調整や研修費用の負担などをおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一月に一回、各セクションの責任者が集まるミーティングがあり、情報の共有などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人様がリラックスできる環境で話し合いが行えるように日時や場所などの調整を行っている。面談時は質問が多くはなるが、出来る限り自然な会話となるよう意識しながら進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴を中心としたコミュニケーションを意識しながら話し合いを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りした内容だけに頼らず、表情や声などの様子も確認しながら緊急性について判断している。必要に応じて他の施設の空き状況などをその場で電話にて確認するなど対応させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力が高い方、面倒見の良い方、家事が苦手な方など一人ひとりの個性を認識し、助け合いながら共同生活が送れるよう配慮している。時に入居者が他の入居者のお世話をする場面なども見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に外出したり、農作業をしたり、他施設に入所しているご家族様の面会に同行させていただいたり、コロナ禍でもこれまでの関係性が継続できるようにご家族様の助けをいただきながら日々対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前ご家族様からご要望があり、畑にお連れさせていただいた。 ご本人様が大切にされてきた事との関係性が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが難しい方は個別で職員が対応させていただいている。 ご入居者様同士が口論になる場面もあるが、職員が間に入り落ち着かせる。 お困りの方を気にかけて下さるご入居者様もおみえになる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方のご家族様が訪ねてられることもある。 お越しいただいた際は雑談や相談等お話させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時々のご本人様の意向を大切にしてお対応させていただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のアセスメントの際に情報収集を行い、職員に周知している。 ご入居後にご本人様、ご家族様等から知りえた情報は都度共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、状態の観察を行っており、様子に変化があった場合は記録に記載し職員全員が確認できるようにしている。 ご本人様が行えること、できないことを共有しどうしたら行こなっていただけるか検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	電話で日々の状況をお伝えさせていただいており、SNSを使用し写真をお送りする場合もある。 その時々でいただいたご意向を個別の介護計画書に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日に起こったことや行ったことは記録や日誌に細かく記載し申し送りを行い職員全員に周知できるようにしている。 それを元にケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様からご相談等いただいた際は職員間でどのようにすれば行えるか検討し、可能な限りご対応させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが感染状況をみながら、少しずつ催し物にも参加させていただいている。また、食材の買い出しなどご入居者様と一緒に出かけたりさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人である為、医療面に関しては常に協力体制が取れている。ご入居者様に変化があった場合はご家族様にも報告し、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者様に変化があった場合は都度報告、相談させていただいている。看護師からいただいた助言は職員間で共有し、日々のケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居様が入院された際は日々の状況をご家族様から共有いただいている。知りえた情報は職員間で共有し退院後のケアの方法について協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居前に口頭、書面にてご説明させていただいている。終末期と宣告された際は再度ご意向の確認とご説明をさせていただき、以降変更などあればすぐに対応できるように取り組んでいる。職員間でも話し合い終末期ケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の発生時は看護師などから対応方法を聞き、応急処置を実施している。緊急時の対応はマニュアルを作成し共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回併設のデイケアと共に消防署のご協力をいただき避難訓練を行っている。反省点、改善点は職員間で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様一人一人の個性を大切に、接し方は個人に合わせて変えさせていただいている。ご入居者様の状況に合わせてご対応させていただいている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自分の意思を表現できるようにお話を傾聴し、意思を引き出す支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、その日のご入居者様の状態に合わせて支援を行うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居前の様子をご家族様にもお伺いし、ご本人様らしさを大切にできるようにお声掛けをさせていただいている。ご本人様が行えない部分についてはこちらで支援させていただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のご入居者様の状況をみながら料理の盛り付けや野菜の皮むき、配膳や食器拭きなど行っていただけるように支援を行っている。ご自分から積極的に行ってくださいご入居者様もおみえになる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は職員全員が確認できるようになっており、状況に合わせてご入居者様にお声かけし、お勧めしている。場合によっては食事形態の変更や、看護師や主治医に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者様の口腔ケアは毎食後に行っており、週に1回訪問歯科(協力歯科医)を受けていただいている。歯科衛生士の助言を元にご入居者様の状態に合わせて支援させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを掴むためチェック表を活用し、それを元にお声かけ、トイレ誘導を行っている。夜間帯も同様である。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやバナナ、サラダなど食物繊維が摂れる食事を取り入れている。 また、ご本人様の状況に合わせて水分をお勧めしたり、散歩や歩行をする機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間については決まった時間帯に行わせていただいているが基本日曜日を除き入浴可能である。 全介助のご入居者様は併設のデイケアで機械浴にてご入浴いただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはご入居者様のお好きな時に身体を休めたり、就寝されている。 ご自身で行えない場合はご入居者様の状況を見て対応させていただいている。 夜間眠れないご入居者様には日中の活動量を高めるなど支援させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員ふたりで二重チェックしご入居者様にも確認いただいてから服用していただいている。 薬の説明書は職員が閲覧できるようになっており、急遽変更があった場合は日誌、申し送り帳にて把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前から続けられていたことは継続して行っていけるように支援している。 ご入居者様の状況に合わせて料理や洗濯など職員と一緒にさせていただいている。 買い物や散歩といった気分転換も状況に合わせて行わせていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全てのご入居者様の要望に対してお応えできていないが、ご本人様、ご家族様の希望により計画し畑にご入居者様をお連れした事例もある。 感染状況にもよるが、ご本人様、ご家族様の希望にお応えできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理をされている方がおられないが、ご希望があればご家族様と相談し対応させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との電話の際にご入居者様と電話を代わりお話できる時間を設けたり、ご入居者様からご要望があれば個別で対応させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所は不快に思われないように汚れなど都度掃除させていただいている。 室温などご入居者様に合わせて対応させていただいているが個人によっては感じ方が違うため、ひざ掛けを使用していただいたり可能な限り居心地よく過ごしていただけるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様によっては自室にて過ごされたり、ソファーと一緒に座りテレビをご覧になるなど状況に合わせて過ごしていただけるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を持参される方もおられる。不安を感じておられるご入居者様にはご家族様と相談し家族、飼っておられたペットの写真など飾らせていただき安心して過ごしていただけるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に掲示をするなどご本人様にご理解いただけるように工夫している。 また動線上に普段から物を置かないように徹底している。		